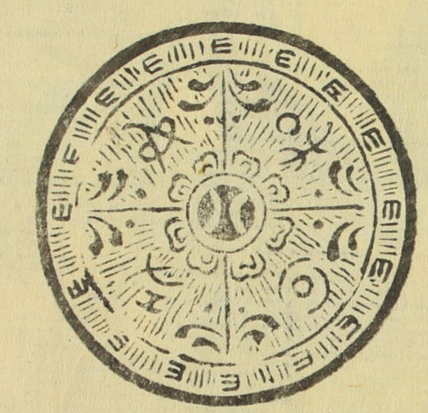
Gôran:(No. 014)
Jidai Yagami.
Part B. Book 16-27.
Decorative Binding.

へ 13
3756
6

時代鏡十六編上



春水作國貞画

時代鏡 十六編之下

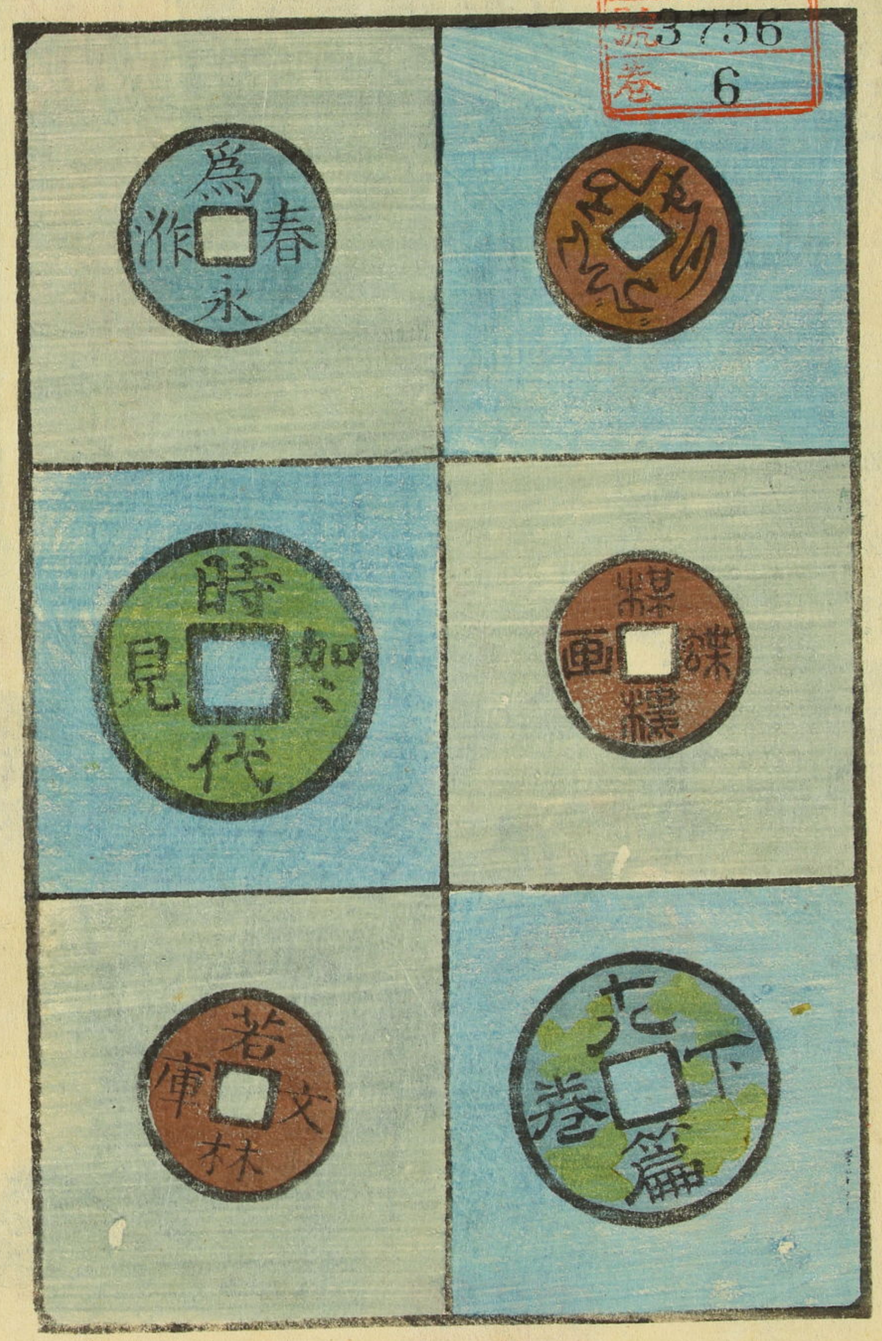
春水作 國貞畫

北雪美談時代鏡
十六編上
春好作
國貞画
仆題豊国画
一元編
寿林堂
寿梅

時代加賀見
仕題曲五團扇
末の美彩彫
十七編上
十七編下
国貞画

北雪美談時代加賀見
十八編下
花束狂板
作題曲五周忌
十八編上

門へ13
3756
巻 6



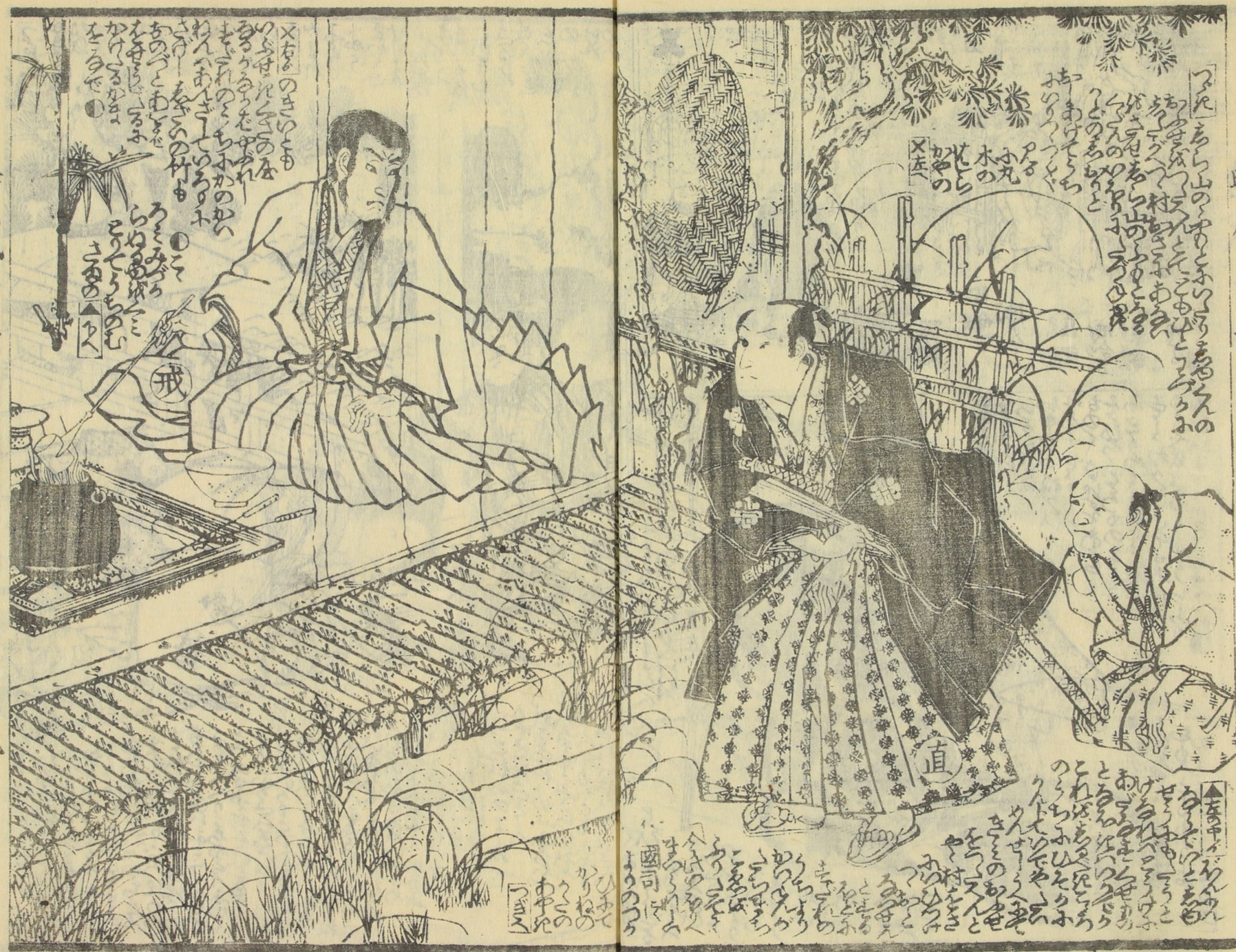
寅義八小技なりとの(ども)共性情と辨へ方俗と考へ萬類を形容もる成めて儒と道と異ふせぞ介バ僅の國字冊子も讀ふ隨ひ目ふ熟ぶ教道の切實早學問と已ゞ便次の手前味噌も甘いと辛いハ巧拙のその差別たる成よ〳〵も思ひで鳧毛と俱ふ長々〳〵茲ふ二八の編成綴もど蕎麥より延び〳〵作者の腹稿末いと遥けくあるべき成猶寛やうふ賢覽とたゞ

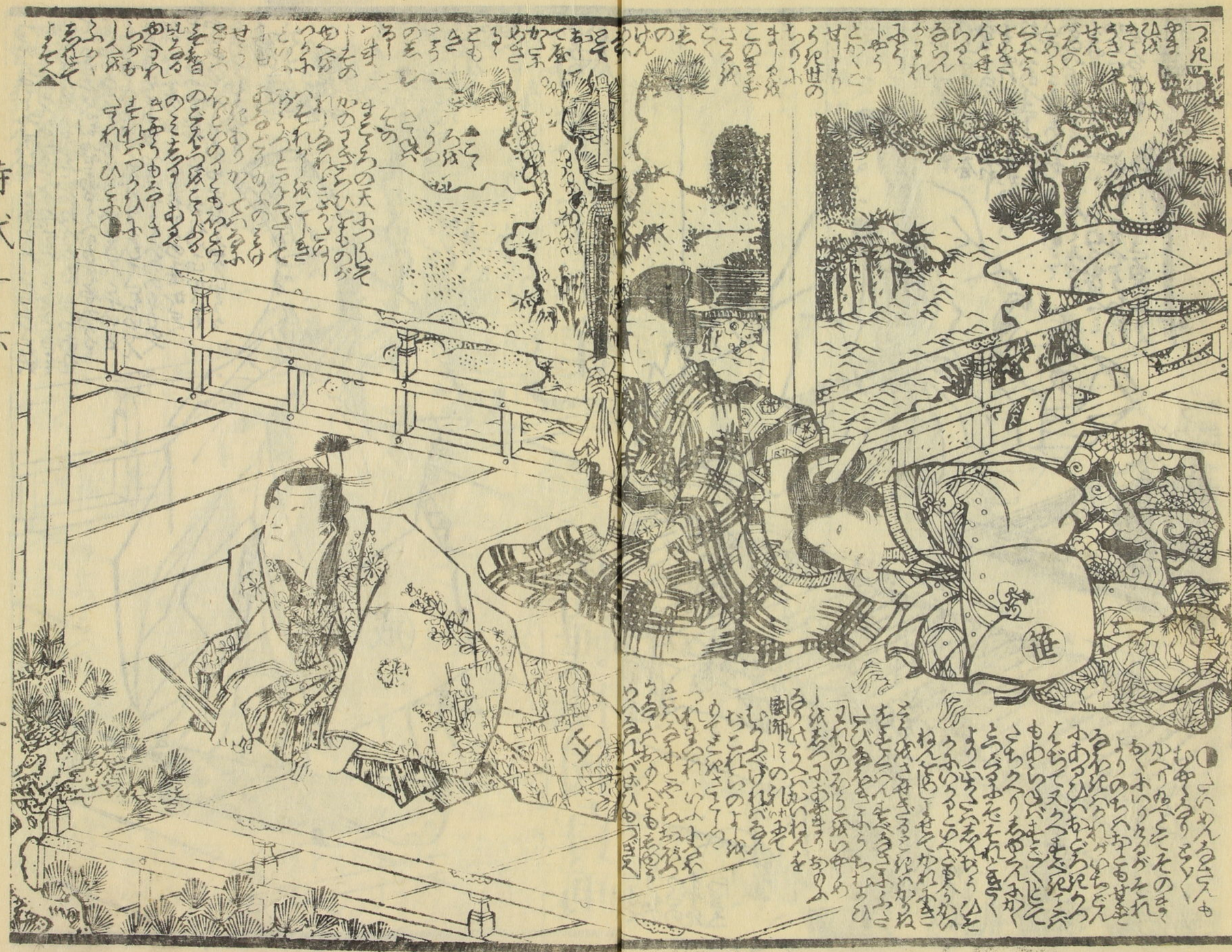
已未
陽春　爲永春水記

山川直記自信
刈根方圖所ハ京病の躰

正
坊
逆
直

君命を傳んと
直記
戒念
草菴
圖


直
戒


笹
正

梅蝶樓國貞画

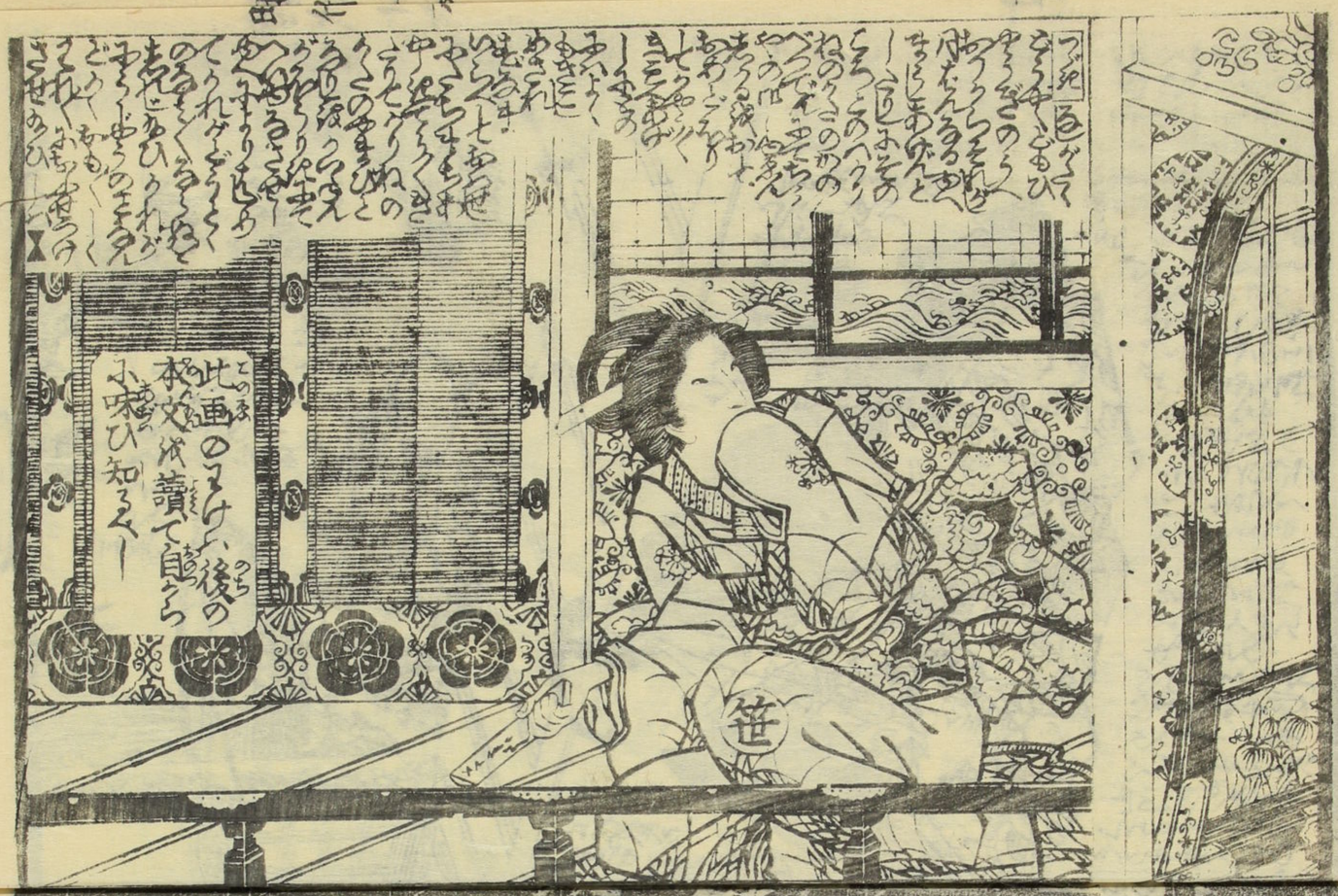
烏亦春水作

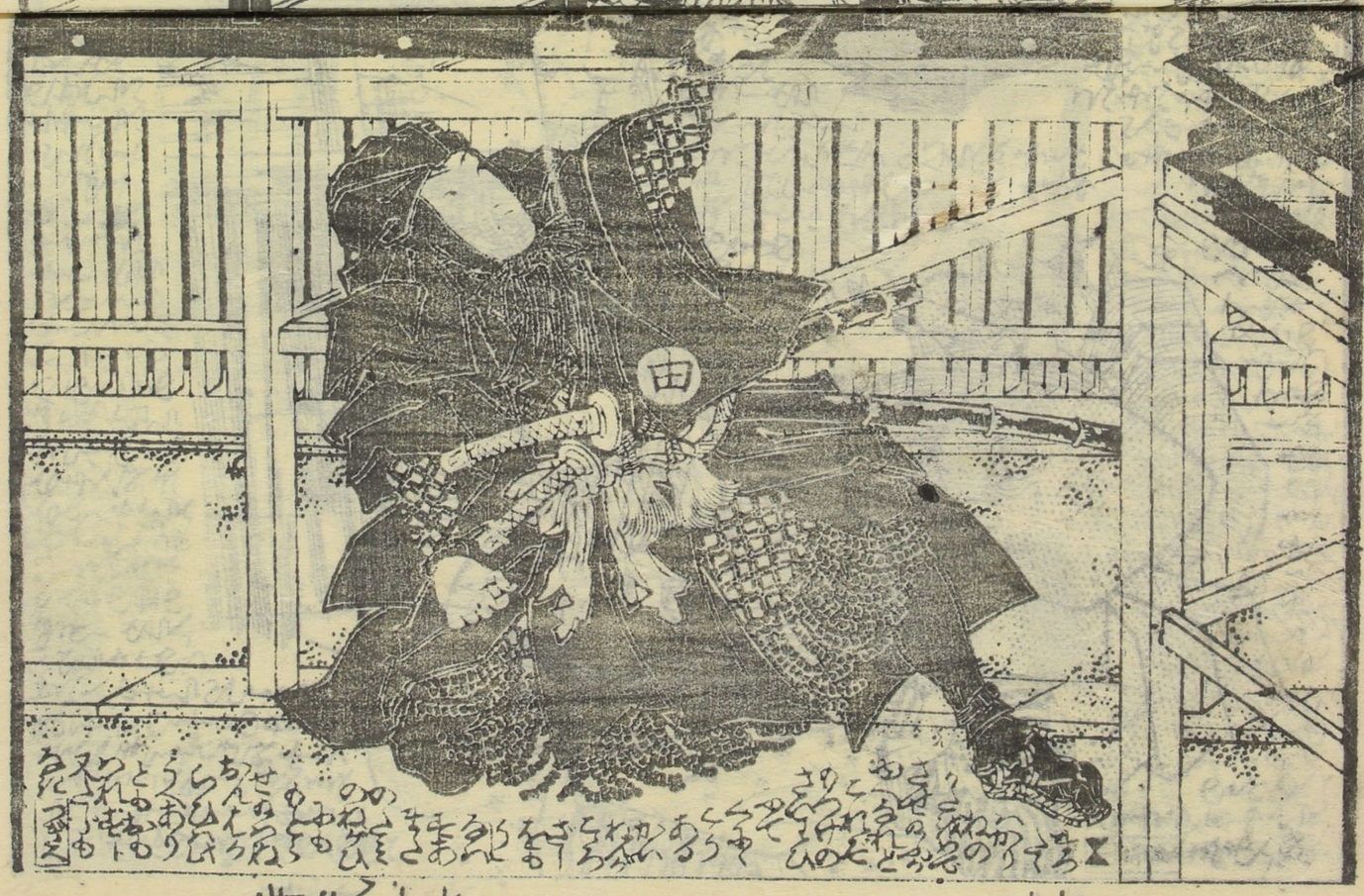
戒
進

戒
直

上ノ
かのとうく
子のあのの助
あらく

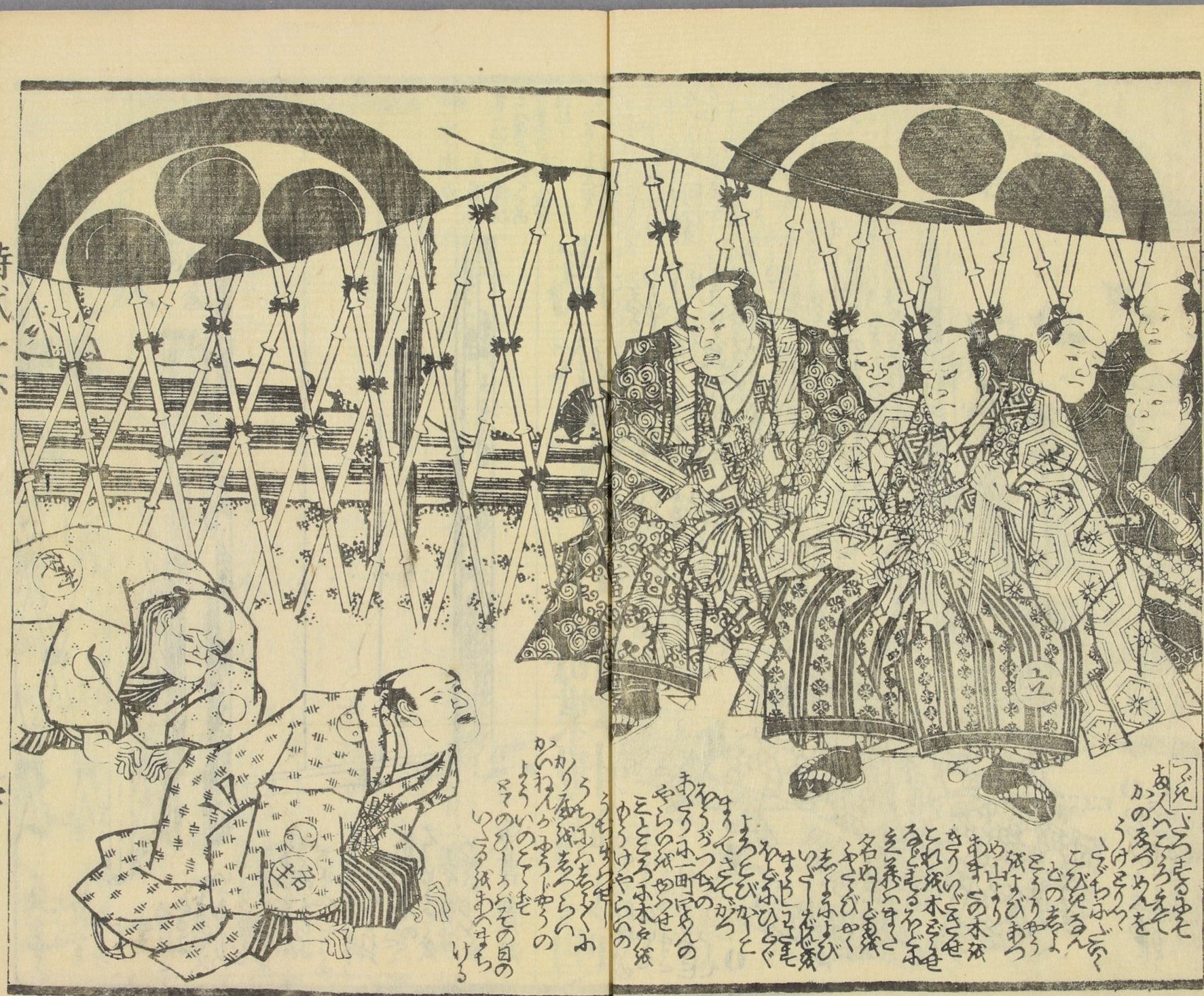
直
尾


笹
此通のつゞき、後の
本文成讀て自ら
小味ひ知るべし

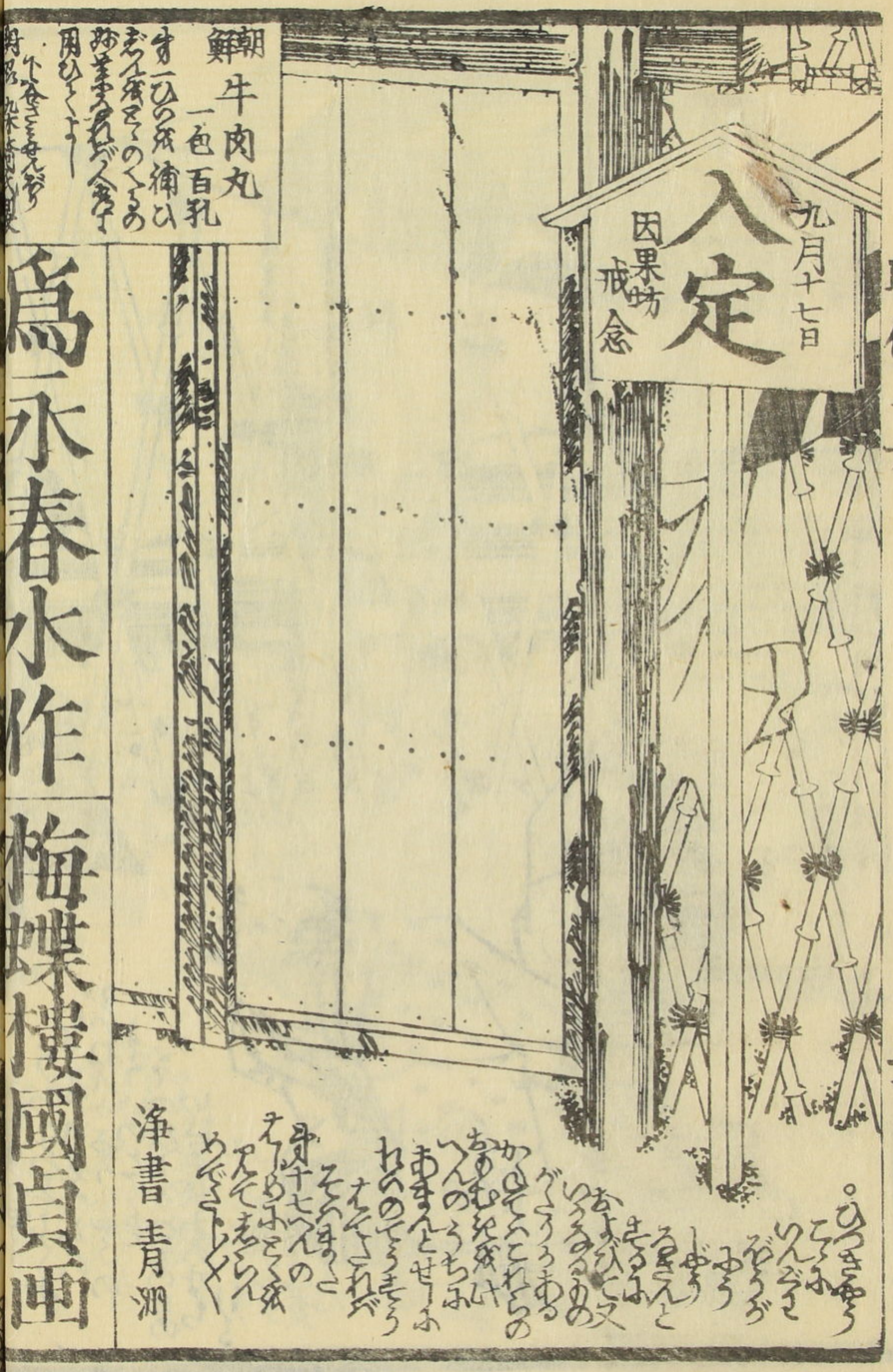

由

戒

直
尾
丙
ふ



つぎは　あんへこころをそ
かのをづめんを
うけそうつ
ぐちふぐ
こびえるん
この者よ
そうりやう
紙よびあつ
ゆ山ようり
あます　この木紙
きりいぐさせ
とれ紙木ぐさを
るどまるわぐ木
えを義ハすまこ
名ゆ　とる紙
ちくびゆく
ちくふよび
いぐ　ちび紙
まゆ　ぬこまも
そぶひらぐ
よろとびかこ
まりてさそかろ
そうぐつちの
あさろ丑一町ぼんの
やらの紙やつせ
ことところ木を紙
ゆろけやらのの
うちふちちくみ
かり紙ちくらの
かいねんろまうーやろの
ようういのこてぎ
さてのひーろびその日の
いてる紙あいまちり
る

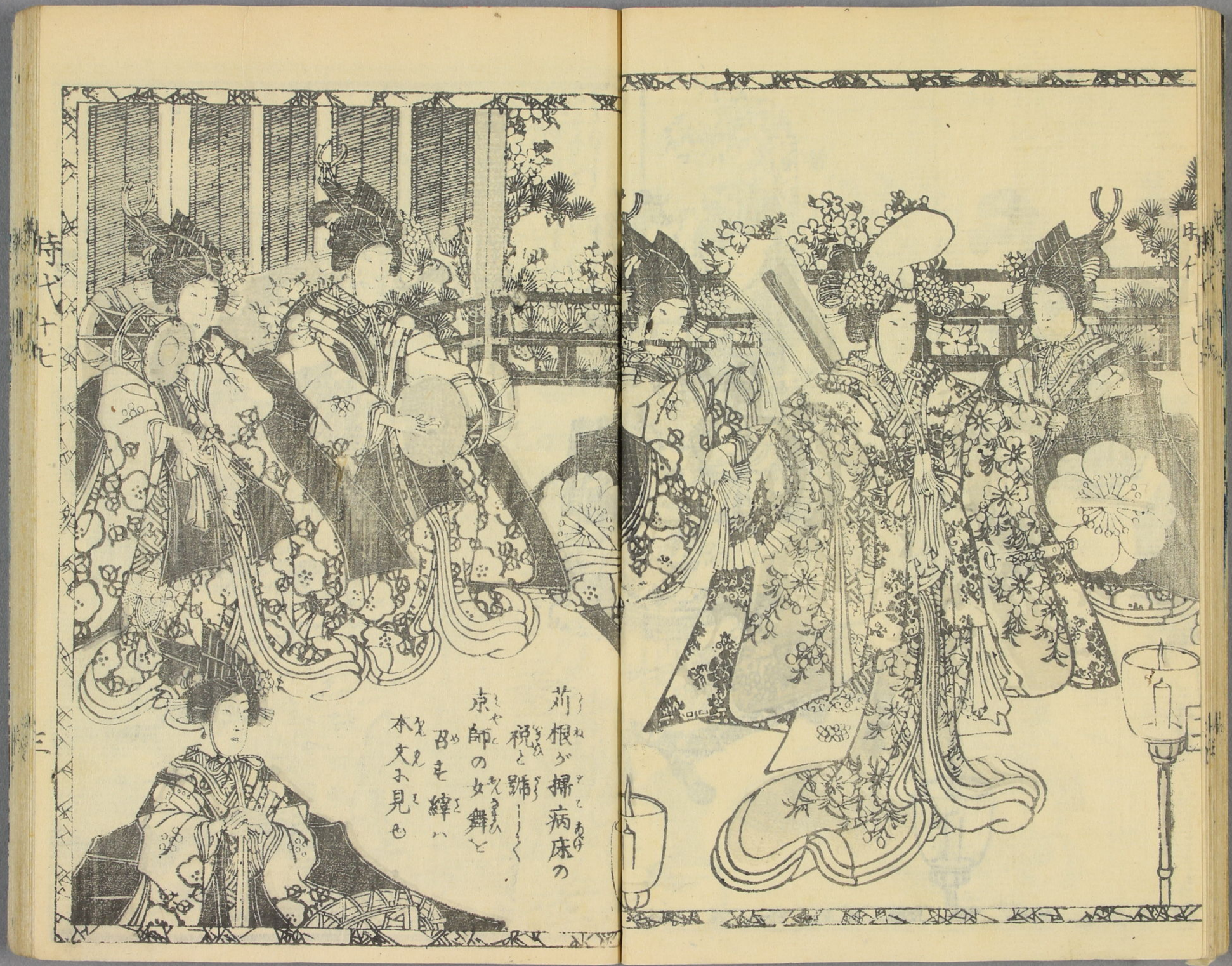


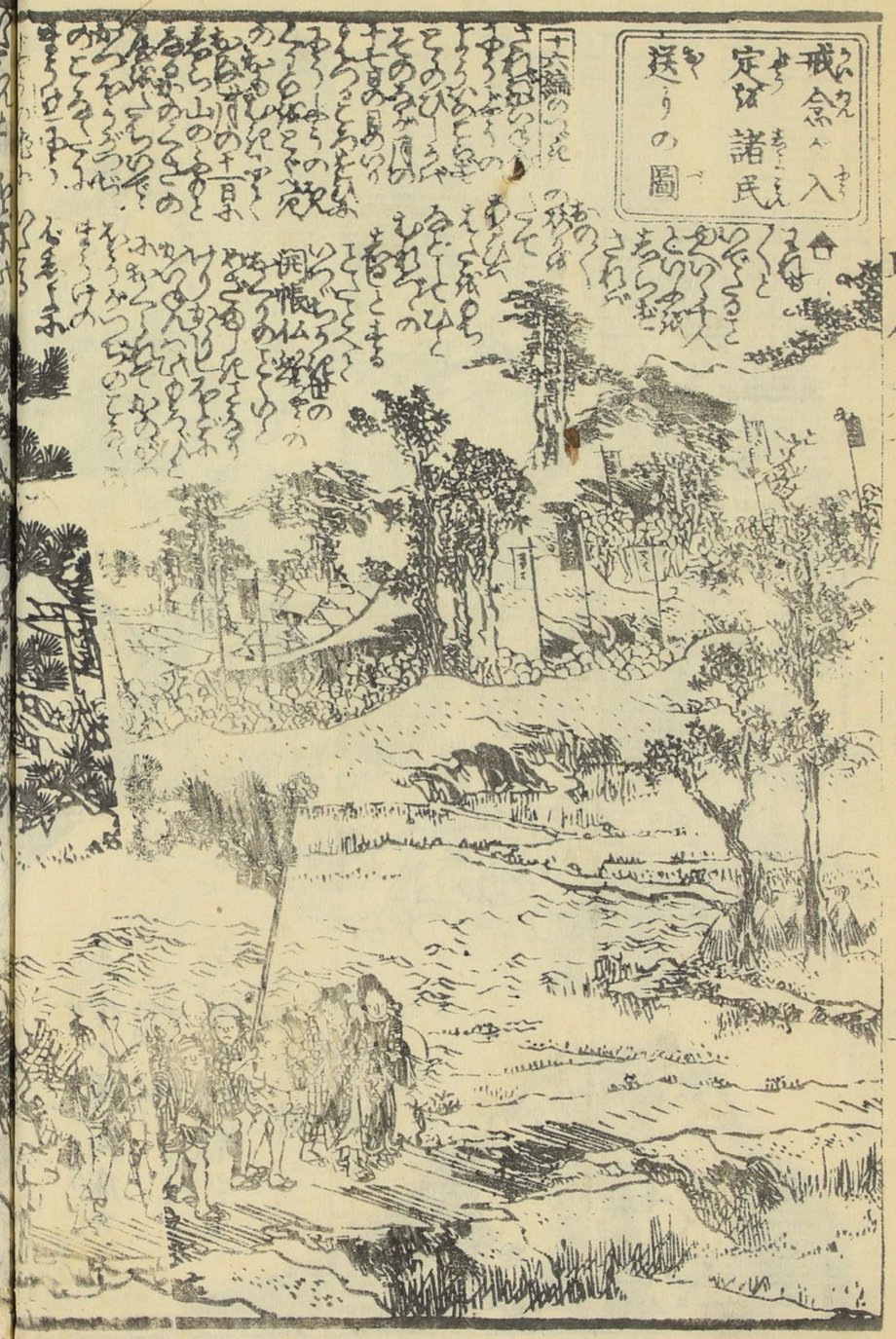
美談時代加賀見十七編序

大約稗史小説ハ。理ありつくるも。竟ハ事のなる所とて。その妙趣上ハ顯るれば。卷を開て閲る者。端るゝ〳〵喜び。端るゝ〳〵悔き。端るゝ〳〵泣き。端るゝ〳〵咲ハ。喜ハ一もつハ丈の緣。悔るもつハ新奇妙言。泣も一もつハ義理分明。笑ハ一もつハ滑稽洒落。這四のものを具らざれば。讀ゆも堪ぞ。看るゆも忍びず。忽卷を投ちて至らん。こハ知り難〳〵賢ハ才ハ人の欠ひの種。木を蒔て久しく長物語。今稔ハ鬼も十七編の些見ところもなくば。山茶の出花も香も。薄き菓子の端文ハ。例の支そよ〳〵もなき。復淳言と述るハあん

安政六巳未歳孟春吉旦　爲永春水誌

笹尾
愛之助
正方
郁根

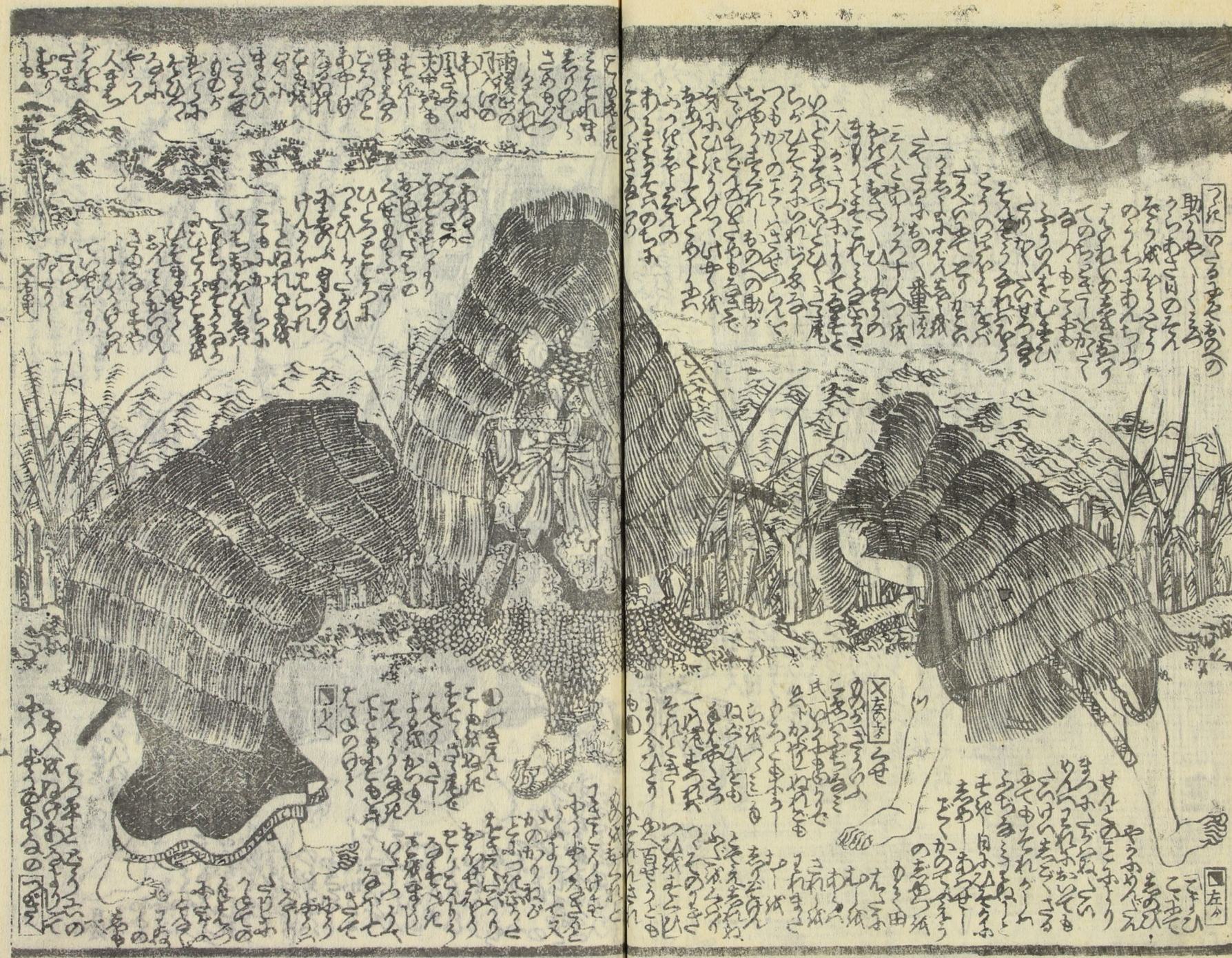

荊根ゞ掃病床の
祝と跳ーーーく
京師の女舞と
召も綽ハ
本文ハ見も


戒念ハ入
定ハ諸民
送りの圖

海
月
戒
寂
海

銅
鐵

戒
縛い末の譚りふ見也

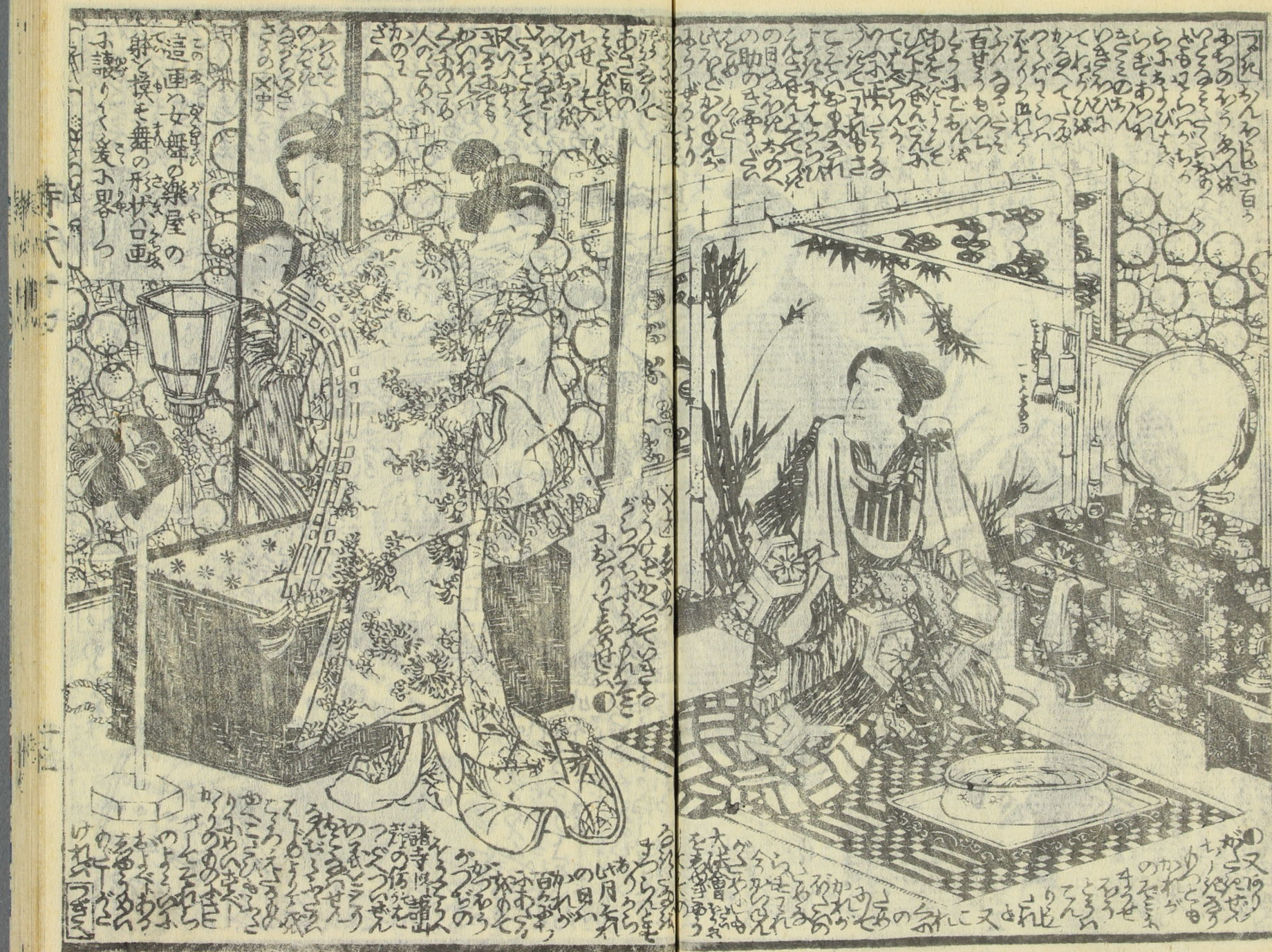


春水作 國貞画

浄書 箕田青洲

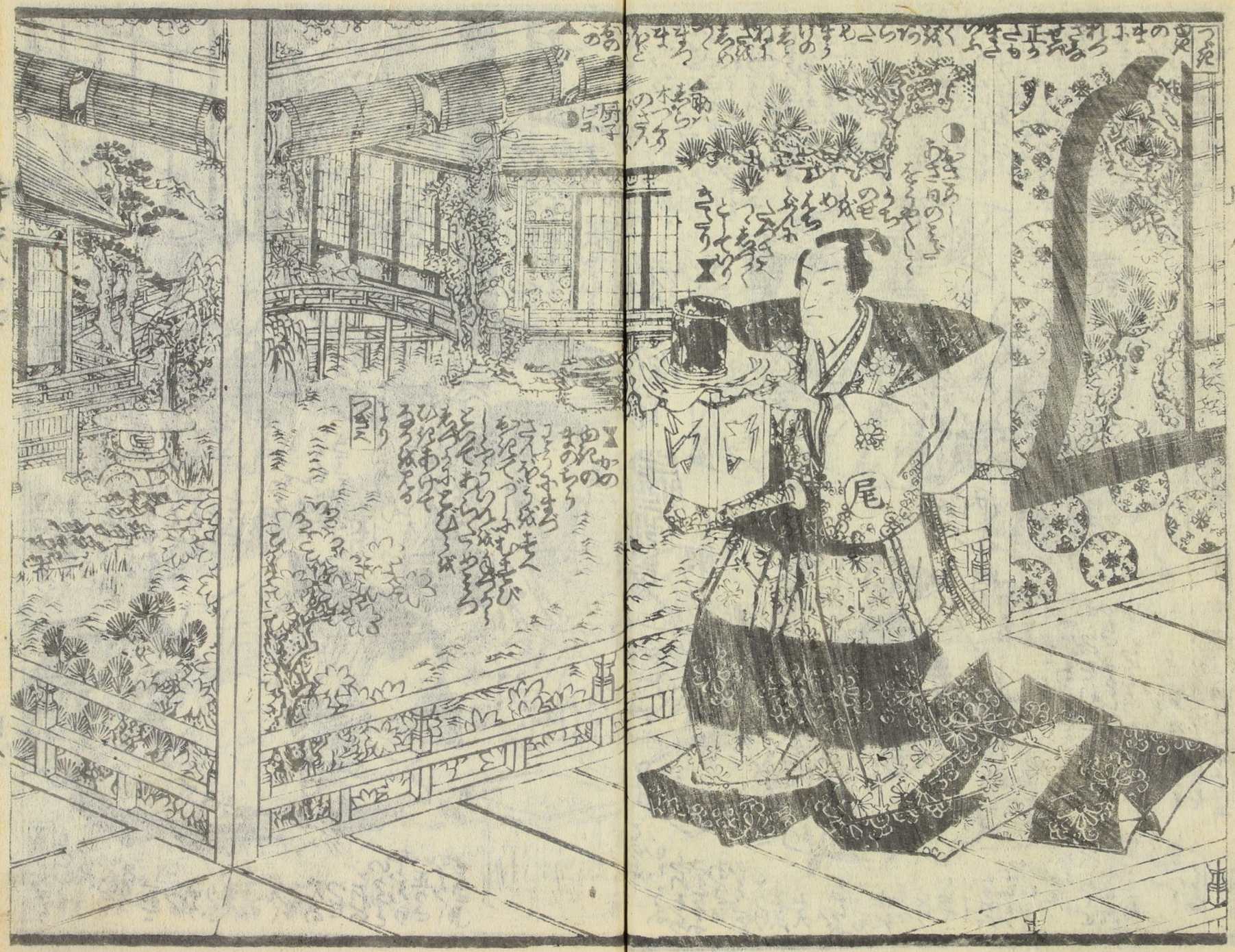
七尾の津

悟浄
戒


這画の女盤の樂屋の
躰く摸を舞の形ゼ口画
ゴ讓りく爰ゴ畧一つ

正
由
上
中

正
内
田
尾


尾
厨子

由
尾

朝鮮牛肉丸一包百銅
[illegible]
對馬 [illegible] 梁崎氏製

爲永春水作 一壽齋國貞画

○岩藤が亡靈

北雪美談 昔代加見

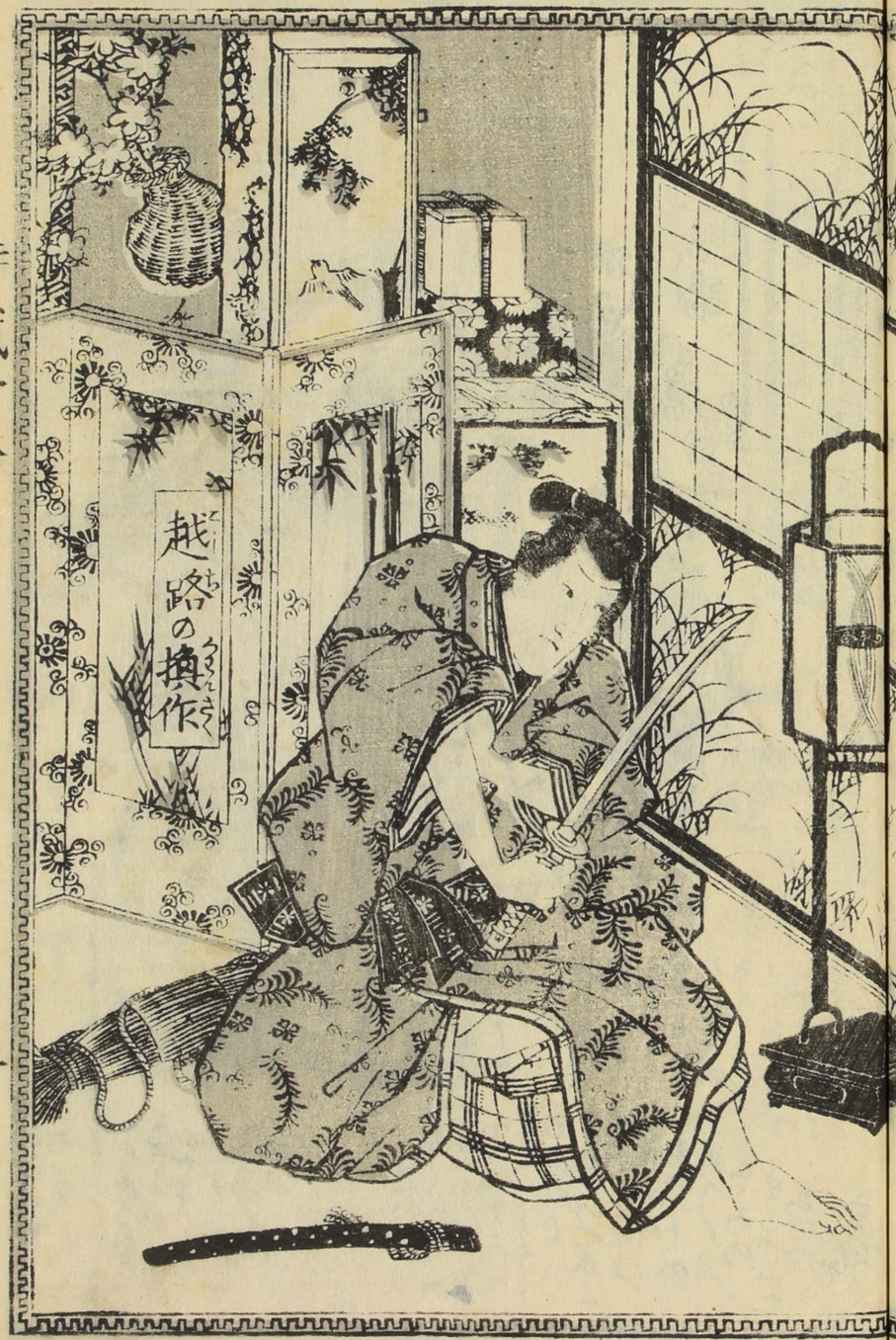
十八篇

叙

常ふ言を食りのゝ閻羅王の廳ふいうゝ。舌を拔うゝと。ゝ言ん言ゝ。是ゝ食言の親王ふゝ。唖を法ゝせゝ為ゝ。嘘をゝとゝれを戒む。小ゝ佛の方便も。ゝ衆生を救ゝ空言ゝゝ實ふゝゝ出ゝ眞ゝゝゝ根がゝゝぬゝ七段目の由良が金言鑿せる哉。嗚呼虚語ゝ可もゝゝゝゝ又不可もゝゝゝゝ今這時代加ゝ見ふゝ。

安政六己未夏稿成翌庚申春發行　爲永春水誌

尾上之助が
妻阿鐘
下奴
勝正
初浦の
老僕
弥次
兵衛


越路の換作

直記の娘若鮫

國貞画

春水作

か
弥
尾

勝
尾

爲永春水作
梅蝶樓國貞画

慶應三丁卯年新刻目録

北雪美談 時代加賀實 廿六編 廿八編迄 爲永春水作 歌川國貞画

雜談雨夜質庫 一せつ一度ゝ切ゝ 六編 七編 出板 爲永春水作 一陽齋豐國画 門人 國久画

池園よの語 初編 二編 山々亭有人作 歌川國貞画

庭訓武藏鐙 應賀作 國貞画 六編揃

地本草紙問屋 若林堂 芝神明前 若狹屋與市梓

あさがおかぶり

拾八編

玉林堂梅

一番